

紀貫之をしのび

土佐日記

門出のまつり

土佐日記に記されている紀貫之の帰郷の日の二月八日(旧十二月二十一日)に、地元の人など約百四十人が参加して土佐日記門出のまつりが開かれました。

これは、国府史跡保存会(乾常美会長)が主催して、土佐日記に

記されている門出の日(承平四年十二月二十一日)をしのぶとともに国府の史跡をさらに広く紹介しようと昭和六十年から行っているもので今年で四回目。

二時から比江の国司館跡で祭典。



永源寺の住職らによる読経

永源寺や国分寺の住職による読経の後、まほろば囃子が奉納されました。続いて乾会長が「様々な方の支援によって四回目を迎えることができました。これからもお力添えを得て守っていかねければならないと考えています。今年は紀氏旧跡碑が建碑二百年、史跡保存会も三十周年という記念すべき年です。今後どのような形で行っていくかも

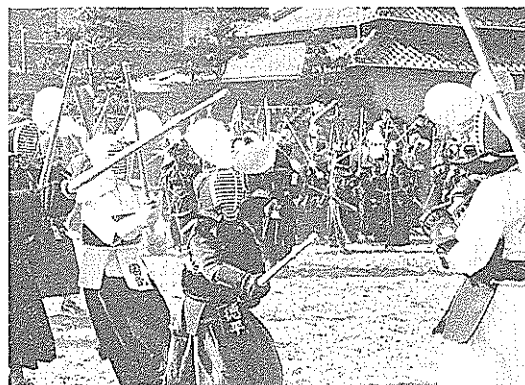


まほろば囃子に舌鼓を打つ参加者

考えていかなければならないが、ゆくゆくは県や市の協力もお願いしたい」とあいさつ。参加者には地元の婦人が抹茶やまほろばをふるまっていました。この後場所を国府公民館に移して門出の宴になぞらえて懇話会が開かれ、中内知事も出席し、紀貫之をしのんで話に花を咲かせていました。

※紀氏旧跡碑＝寛政のころ国学者尾池春水らが建てたもの。「紀氏旧跡碑」の文字は山内九代藩主豊雍の筆で、その下に目野大納言資枝作の「あぶく世にやどりしところ末遠く伝へんためとのこす石ふみ」という和歌が記されている。門出のまつりはこの碑の前で行われている。

豆剣士260人が 威勢よく野試合 蔵福寺春祭り



「いざ、勝負」

田村の天主山蔵福寺(永吉妙真住職)の春祭りが、二月七日に行われ、恒例の豆剣士による奉納野試合などに大勢の市民が訪れて声援を送りました。

蔵福寺では守護神の祇園牛頭天王(須佐之男命)にちなんで青少年の健全育成と心身の鍛錬を願い、昭和三十七年から剣道の奉納試合を行っています。今年も盛んになり、現在では南国市内だけでなく香美郡や高知市などからも参加者があり、今年は約二百六十人が参加しました。

南国市長や永吉住職のあいさつの後、境内に設けられた舞台でさまざまな居合道の模範演舞が披露されました。続いて蔵福寺前の田んぼで野試合。ルールは防具の面に風船をつけた豆剣士が紅白に別れ、相手方の大将の風船を割った方が勝ち。太鼓の合図とともに激しい合戦が繰り広げられました。結果は引き分けでしたが、田んぼの中は剣士たちの掛け声や激しく打ち合う竹刀の音が響き、きながら戦国時代のような雰囲気包まれていました。